

## 4 スポーツ施設の管理運営

### (1) スポーツ施設の戦略的活用

令和4年1月の「TOKYOスポーツレガシービジョン」において、「都立スポーツ施設の戦略的活用」について公表した。東京2020大会を契機に、新規恒久施設の整備や、既存施設のバリアフリー化等の改修、さらに、大会のレガシーを活かしたパラスポーツやアーバンスポーツ施設も誕生するなど、都立スポーツ施設をバージョンアップしてきた。これら、18施設のネットワークや各施設の特性を活かしながら、①スポーツでの更なる活用②多様な活用による新たな体験の提供③施設・地域との連携の3つの取組で、施設の活用を推進していく。

令和5年度からは、18施設のネットワークを生かすため、「発信力の強化」「ニーズ対応力の強化」「一体的な取組によるスポーツ振興」の3つの視点で、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団との共催により、「都立スポーツ施設の連携促進事業」を施設横断的に展開している。

<主な取組>

- ・LINE等SNSを活用した情報発信

既存SNSの連携・活用に加えて、令和5年度はLINEを新規開設し、各施設のイベント情報などの情報発信を行っている。

- ・「TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ」の開設

都立スポーツ施設の施設利用に関する総合的な相談窓口を公益財団法人東京都スポーツ文化事業団内に設置した。スポーツ・競技利用を始め、様々な利用ニーズに対しワンストップに対応する。

- ・都立スポーツ施設を巡るバスツアーの開催

東京2020大会のレガシーを始め、広く都立スポーツ施設に親しんでいただくため、各施設をバスで巡るツアーを開催する。それぞれの施設では、競技観戦やスポーツ体験会等の機会を提供する。(令和5年度は、全7回予定)

### (2) 都のスポーツ施設

スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図り、都民の心身の健全な発達に寄与することを目的として施設を設置している。

#### ア 東京体育館

都民の生涯スポーツの普及・振興を図るため、個々の体力や年齢・技術・興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるように、全都的総合体育施設としての特徴をいかした施設の貸出及び個人公開を行うとともに、各種スポーツ事業を実施している。

- ・開館年月日 昭和31年8月15日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 渋谷区千駄ヶ谷一丁目17番1号
- ・施設規模 敷地面積 45,800㎡



主要施設

施設名	施設の概要
メインアリーナ	面積 3,220 m <sup>2</sup> 観覧席 9,308 席 (固定席 5,178 席 車椅子席等 130 席 仮設席 4,000 席)
サブアリーナ	面積 1,330 m <sup>2</sup>
屋内プール	50mプール 8レーン 観覧席(固定席) 900 席 25mプール 6レーン
陸上競技場	200mトラック 5レーン 100m直走路 5レーン
トレーニングルーム・スタジオ	トレーニングルーム面積 A412 m <sup>2</sup> B191 m <sup>2</sup> スタジオ面積 340 m <sup>2</sup>
健康体力相談室	面積 130 m <sup>2</sup> 診察室、カウンセリング室、運動負荷検査室、筋力測定室
スポーツ情報コーナー	スポーツ情報資料等の収集・展示

- ・管理運営 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループが指定管理者として管理運営
- ・令和4年度事業実績

〔施設稼働率〕 (単位:%)

	メインアリーナ	サブアリーナ
令和4年度	95.4	96.7

〔個人利用者数〕 (単位:人)

	陸上競技場	プール	トレーニングルーム	月額固定利用者	健康体力相談室	合計
令和4年度	17,824		239,274	48,453	144	305,695

〔主要大会〕

名称	日程
全日本新体操ユースチャンピオンシップ/男子新体操団体	5/20～22
B. LEAGUE FINALS 2021-22	5/28～29
世界バドミントン選手権大会 2022	8/22～28
2022 イオンカップ 世界新体操クラブ選手権	10/20～23
全日本チアダンス選手権大会	11/26～27
ウインターカップ 2022 全国高等学校バスケットボール選手権大会	12/23～29
春の高校バレー 全日本バレーボール高等学校選手権大会	1/4～8
天皇杯 日本車いすバスケットボール選手権大会	1/17～18
テニス日本リーグ	2/17～19
全日本新体操チャイルド選手権	3/2～5

## イ 駒沢オリンピック公園総合運動場

公園の自然豊かな環境の中で、都民が多様なスポーツに親しめる環境を整備し、施設提供のほか、スポーツ・レクリエーションの普及や資料収集等、施設の特性をいかした事業を展開している。



- ・開館年月日 昭和 39 年 12 月 1 日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 世田谷区駒沢公園 1 番 1 号
- ・施設規模 公園全体面積 413,573 m<sup>2</sup>  
運動施設面積 (専用駐車場を含む) 157,038 m<sup>2</sup>

### 主要施設

施設名	施設の概要
陸上競技場	面積 18,260 m <sup>2</sup> 2種公認 観覧席 20,010 席(うち車椅子席 20 席)
体育館 ※改修中	面積 1,842 m <sup>2</sup> 観覧席 3,478 席(うち仮設席 1,120 席、車椅子席 4 席)
屋内球技場	面積 1,833 m <sup>2</sup> 観覧席 2,358 席(うち仮設席 800 席、車椅子席 26 席)
第一球技場	面積 8,051 m <sup>2</sup> 観覧席 1,038 席(うち車椅子席 18 席)
第二球技場	面積 8,409 m <sup>2</sup> (人工芝) 観覧席 1,618 席(うち車椅子席 3 席)
補助競技場	面積 10,530 m <sup>2</sup> (人工芝)
硬式野球場	面積 12,754 m <sup>2</sup> (人工芝) 観覧席 3,040 席(うち車椅子席 28 席)
軟式野球場	面積 12,565 m <sup>2</sup> 2面
テニスコート	面積 6,305 m <sup>2</sup> 砂入り人工芝 8面
弓道場	近的射場(9人立 和弓 28m、アーチェリー 18m) 遠的射場(2人立 和弓 60m、アーチェリー 30m・50m)
屋外プール	休止中
トレーニング ルーム	陸上競技場東側下内 1,996 m <sup>2</sup>

- ・管理運営 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループが指定管理者として管理運営
- ・令和4年度事業実績

### 〔施設稼働率〕

(単位:%)

	体育館	屋内球技場	第一球技場	第二球技場	補助競技場
令和4年度	93.5	88.5	85.5	94.1	94.7

### 〔個人利用者数〕

(単位:人)

	トレーニング ルーム	弓道場	合計
令和4年度	123,267	2,713	125,980

### 〔主要大会〕

名称	日程
令和4年度ジュニアクイーンズカップレスリング選手権大会	4/9~10
2022 ジャパンパラボッチャ競技大会	8/19~20
第75回全日本選手権(個人戦)フェンシング大会	9/8~10
令和4年度全日本レスリング選手権大会	12/22~25
令和4年度第101回全国高等学校サッカー選手権大会	12/29、31、1/2
第30回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会	1/5~8
JFA第28回全日本フットサル選手権大会	3/17~19

## ウ 東京武道館

武道の普及振興を図る東京都の中心拠点として、大規模武道競技大会へ施設を提供するとともに、武道振興及び都民の健康増進のための各種事業、情報提供、指導者研修等を実施している。

- ・開館年月日 平成2年2月10日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 足立区綾瀬三丁目20番1号
- ・施設規模 敷地面積 14,824 m<sup>2</sup>



### 主要施設

施設名	施設の概要
大武道場	面積 1,972 m <sup>2</sup> 観覧席 3,728 席(固定席 1,728 席 仮設席 2,000 席) 他に車椅子席 16 席
第一武道場	面積 520 m <sup>2</sup> 240 畳
第二武道場	面積 473 m <sup>2</sup>
弓道場	和弓(近的)12 人立 和弓(遠的)10 人立
トレーニングルーム	面積 449.7 m <sup>2</sup>

- ・管理運営 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループが指定管理者として管理運営
- ・令和4年度事業実績

〔施設稼働率〕 (単位:%)

	大武道場
令和4年度	90.6

〔個人利用者数〕

(単位:人)

	トレーニングルーム	弓道場	第一武道場	第二武道場	合計
令和4年度	56,071	2,899	815	1,222	61,007

〔主要大会〕

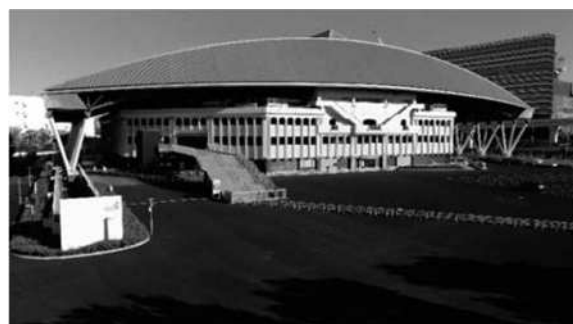
名称	日程
第23回全日本ブラジリアン柔術選手権	4/9~10
第77回国民体育大会関東ブロック大会なぎなた競技	7/17
世界松濤館空手道連盟第15回世界大会	8/5~6
第77回国民体育大会関東ブロック大会柔道競技	8/14
第77回国民体育大会関東ブロック大会剣道競技	8/20
第77回国民体育大会関東ブロック大会空手道競技	8/27
第58回和道流空手道連盟全国大会	9/10~11
第57回全日本居合道大会	10/8
第70回全国青年大会剣道競技	11/12~13
第24回全日本実業団女子・高壮年剣道大会	3/4

## エ 有明テニスの森公園テニス施設

センターコート「有明コロシウム」のほか、ショーコート、インドアコート、屋外コートを備えた国内有数のテニス競技施設である。

昭和 58 年の開設以来、国際大会から一般利用まで、テニスの拠点施設として多くの方々に親しまれている。

- ・開館年月日 昭和 58 年 5 月 14 日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 江東区有明二丁目 2 番 22 号
- ・施設規模 運動施設面積 163,342 m<sup>2</sup>



※ 平成 23 年 4 月 東京都港湾局から移管

### 主要施設

施設名	施設の概要
テニスコート	ハードコート（照明有） 23 面 砂入り芝コート（照明無） 16 面 ※令和 5 年 4 月から再開業
インドアコート	ハードコート 8 面
ショーコート	ハードコート 1 面 観客席 3,018 席 （うち固定席 2,910 席、車椅子席 36 席）
有明コロシウム	ハードコート 1 面 観客席 10,008 席 （うち固定席 9,388 席、車椅子席ほか 152 席）

- ・管理運営 有明テニス・マネジメントチームが指定管理者として管理運営
- ・令和 4 年度事業実績

〔稼働日数〕 (単位:日)

	有明コロシウム	ショーコート
令和 4 年度	248	297

※改修工事のため、施設利用に制限あり

〔年間利用者数〕 (単位:人)

	インドアコート (8 面)
令和 4 年度	48,229

※改修工事のため、施設利用に制限あり

〔主要大会〕

名称	日程
東レ パシフィックオープンテニス	9/19～25
楽天ジャパンオープンテニス	10/3～9
全日本テニス選手権	10/22～30

### オ 若洲海浜公園ヨット訓練所

若洲海浜公園ヨット訓練所は、基礎的なヨットの帆走技術を習得できる施設である。

ヨット教室では帆走訓練、ロープワーク、ヨットの艀装（組立等）、室内講義等を行っている。

- ・開館年月日 平成3年7月6日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 江東区若洲三丁目1番1号
- ・施設規模
 

全体面積	47,235 m <sup>2</sup>
陸域面積	30,735 m <sup>2</sup>
水域面積	16,500 m <sup>2</sup>



※ 平成23年4月 東京都港湾局から移管

#### 主要施設

施設名	施設の概要
マリナー	ヨットヤード 浮棧橋 5基(延長150m) 監視塔 1基(高さ11.25m)

- ・管理運営 若洲シーサイドパークグループが指定管理者として管理運営
- ・令和4年度事業実績

[年間利用者数] (単位:人)

	ヨット訓練所
令和4年度	1,302

#### [主要大会等]

名称	日程
東京港レガッタ	5/22
サマーカップ	7/31
バレンタインカップ	2/26
マンスリーレガッタ	9回実施
障害者体験乗船会及び障害者ヨット教室	9回実施

### カ 武蔵野の森総合スポーツプラザ

味の素スタジアムと合わせて多摩の一大スポーツ拠点を形成し、競技大会や地域スポーツの拠点として多摩のスポーツ振興に貢献すること、大規模イベント等の会場として、地域のにぎわいに貢献することを目的として運営している。

- ・開館年月日 平成29年11月25日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 東京都調布市西町290番11
- ・施設規模 敷地面積 33,473 m<sup>2</sup>



#### 主要施設

施設名	施設の概要
メインアリーナ	競技面積約4,900 m <sup>2</sup> 最大収容人数10,000人以上(うち車椅子席72席、仮設席含む)
サブアリーナ	競技面積約1,800 m <sup>2</sup> 観覧席(固定席)340席
屋内プール	50m×20mプール 8コース 観覧席(固定席)185席

トレーニングルーム スタジオ	トレーニングルーム面積 347 m <sup>2</sup> スタジオ面積 A107 m <sup>2</sup> B127 m <sup>2</sup>
-------------------	--

- ・管理運営 東京スタジアムグループが指定管理者として管理運営
- ・令和4年度事業実績

〔施設稼働率〕 (単位：%)

	メインアリーナ	サブアリーナ
令和4年度	70.0	87.8

〔個人利用者数〕 (単位：人)

	プール・トレーニングルーム	月額固定利用者	合計
令和4年度	118,532	29,100	147,632

〔主要大会〕

名称	日程
令和4年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会	12/9～11
令和4年度 第76回 全日本総合バドミントン選手権大会	12/24～30
Jr. ウインターカップ 2022-23 2022年度 第3回 全国U15 バスケットボール選手権大会	1/4～8
第47回日本ハンドボールリーグプレーオフ	3/17・19

## キ 海の森水上競技場

東京港中央防波堤内側及び外側埋立地間の水路に整備された施設で、2,000mの競技コースを備えた水上競技場。

再開業後は、国際大会が開催できるボート・カヌーの競技場及び育成・強化の拠点とするほか、都民に様々な水上スポーツ、水上レジャーに親しむ機会を提供していく。また、広大な陸上エリアや東京湾のダイナミックな景観を活かしたユニークベンチャーとして活用していく。

- ・竣工日 令和元年5月31日
- ・再開業日 令和4年4月29日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 江東区海の森三丁目6番44号
- ・施設規模 敷地面積 陸域 125,436 m<sup>2</sup>  
水域 543,570 m<sup>2</sup>



主要施設

施設名	施設の概要
競技コース	2,000m ボート 8レーン、カヌー 9レーン
グランドスタンド棟	観客席 1,960席 (うち車椅子席 24席) 会議室、ラウンジ等 延べ面積：約 2,999 m <sup>2</sup>
艇庫棟	艇庫、会議室、宿泊室、トレーニングルーム、食堂、更衣室、ドーピングコントロール室等 延べ面積：約 4,572 m <sup>2</sup>
フィニッシュタワー棟	会議室等 延べ面積：約 496 m <sup>2</sup>

- ・管理運営 海の森水上競技場マネジメント共同企業体が指定管理者として管理運営
- ・令和4年度事業実績

[年間利用者数] (単位:人)

	施設合計
令和4年度	60,599

※令和4年4月29日に再開業

[主要大会]

名称	日程
第100回全日本選手権大会(ボート)	5/12~15
令和4年度東京都カヌースプリント選手権大会	5/29
第77回国民体育大会関東ブロック大会(ボート)	7/8~10
第1回東京・海の森アクアスロン2022	7/17
第77回国民体育大会関東ブロック大会(カヌー)	7/23~24
第1回東京・海の森トライアスロン2022	10/3
TOKYO2020開催記念レガッタ	10/16
ドラゴンボート海の森オープン	10/23

#### ク 夢の島公園アーチェリー場

夢の島エリアに新しく整備された施設で、アーチェリーを中心に、都民・公園利用者に対し、様々なスポーツの機会を提供する。

主要な競技大会の会場に利用されるほか、アーチェリーの普及・強化の拠点として活用されている。

- ・竣工日 平成31年2月28日
- ・再開業日 令和3年10月31日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 江東区夢の島二丁目1番4号
- ・施設規模 敷地面積 22,734.23㎡



主要施設

施設名	施設の概要
休憩舎	長さ約130m 観覧席なし
芝生広場	面積約18,000㎡

- ・管理運営 アメニス夢の島グループが指定管理者として管理運営

[年間利用者数] (単位:人)

	芝生広場
令和4年度	13,717

[主要大会]

名称	日程
2022 TOKYO GUTS LEAGUE (フライングディスク)	5/14~10/8
第55回全日本社会人ターゲットアーチェリー選手権大会	6/25~26
第17回全日本小学生中学生アーチェリー選手権大会	7/16~17
2022年度 関東学生アーチェリー ターゲット個人選手権大会 本選	8/19~20
第64回全日本ターゲットアーチェリー選手権大会	10/21~23



### ケ カヌー・スラロームセンター

都立葛西臨海公園の隣接地に新しく整備された国内初の人工カヌースラロームコース。

再開業後は、カヌーをはじめとした水上競技の国際・国内大会を開催し、アスリート強化育成する拠点とするとともに、広く水上スポーツ体験やラフティングなどの水上レジャーへの参加の機会を提供していく。



- ・ 竣工日 (競技コース) 令和元年5月31日  
(管理棟) 令和元年12月17日
- ・ 再開業日 令和4年7月23日
- ・ 設置根拠 東京都体育施設条例
- ・ 所在地 江戸川区臨海町六丁目1番1号
- ・ 施設規模 敷地面積 約 57,715.71 m<sup>2</sup>

#### 主要施設

施設名	施設の概要
競技施設	競技コース、ウォーミングアップコース、フィニッシュプール、ポンプ施設、ボートコンベア等
管理棟	延べ面積約 1,224 m <sup>2</sup> 艇庫、会議室、トレーニングルーム、更衣室等
多目的棟	倉庫、多目的室 ※ 令和5年1月13日竣工

- ・ 管理運営 株式会社協栄が指定管理者として管理運営

- ・ 令和4年度事業実績

[年間利用者数]

(単位:人)

	施設合計
令和4年度	32,033

※令和4年7月23日に再開業

[主要大会]

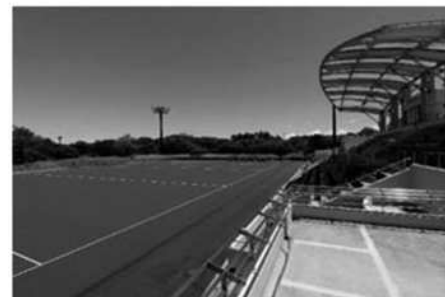
名称	日程
令和4年度カヌースラローム日本代表選手選考大会	4/15~17
第45回NHK杯全日本カヌースラローム競技大会 兼 令和4年度日本カヌースラローム選手権大会	10/21~23

## コ 大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場

都立大井ふ頭中央海浜公園内に整備された、ホッケーをはじめ、様々なスポーツで利用できる多目的球技場。

再開業後は、数少ない公共のホッケー競技場として、ホッケーの競技力強化と普及・振興の場とするとともに、都民が幅広く様々なスポーツを行うことができる場、そして、公園内の他施設と連携し、総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点の形成を目指す。

- ・竣工日 令和元年6月27日
- ・再開業日 令和4年6月18日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 品川区八潮四丁目1番19号(メインピッチ)及び大田区東海一丁目2番1号(サブピッチ)
- ・施設規模 敷地面積 (メインピッチ(多目的コート一面分含む))約26,520㎡、(サブピッチ)約15,400㎡



### 主要施設

施設名	施設の概要
メインピッチ	建物延べ面積：5,927㎡ 観客席：約2,600席(うち車椅子席26席)
サブピッチ	建物延べ面積：1,959㎡ 観客席：約500席(うち車椅子席5席)

- ・管理運営 アメニス海上南部地区グループが指定管理者として管理運営

- ・令和4年度事業実績

[年間利用者数] (単位:人)

	施設合計
令和4年度	89,240

※令和4年6月18日に再開業

### [主要大会]

名称	日程
ラクロス SIXES 日本代表壮行試合	6/18
2022年度関東学生ホッケー春季リーグ	6/19～7/2
高円宮杯ホッケー日本リーグ	7/9～10、7/23～24、12/11、1/20～22、2/26
第34回東日本支部学生ラクロスリーグ戦・女子	8/7～12/10
第34回関東支部学生ラクロスリーグ戦・男子	8/17～12/11
第77回国民体育大会関東ブロック大会	8/19～22
SOMPO JAPAN CUP 2022	8/27～28
全日本社会人選手権大会	9/3～4、10/14～16
2022年度関東学生ホッケー秋季リーグ	9/10～11/23
第10回 WMH マスターズホッケーワールドカップ	10/19～29
第71回男子・第44回女子全日本学生ホッケー選手権大会	11/2～6
男子第96回・女子第83回全日本ホッケー選手権大会	11/17～20
第3回 マスターズホッケー JAPAN CUP 2022	12/3～4
ホッケー マスターズ/レディースリーグ 2022-2023	1/14～3/18

## サ 東京アクアティクスセンター

都立辰巳の森海浜公園内に整備された日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場。

再開業後は、国内外の競技大会の実施や次世代アスリートの強化・育成の場を提供するとともに、子供から高齢者まで、誰もがスポーツや健康増進に取り組むことができる場を提供していく。



- ・竣工日 令和2年2月28日
- ・再開業日 令和5年4月1日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 東京都江東区辰巳二丁目2番1号
- ・施設規模 敷地面積 約36,399 m<sup>2</sup>  
延べ面積 約50,692 m<sup>2</sup>

### 主要施設

施設名	施設の概要
メインプール	50m×25m 水深0～3m、10レーン・可動壁・可動床 観客席：4,934席（うち車椅子席52席）
ダイビングプール	25m×25m 水深5m
サブプール	50m×25m 水深0～3m、10レーン・可動壁・可動床

- ・管理運営 事業団・オーエンス・セントラルスポーツ・都水協グループが指定管理者として管理運営

## シ 東京都パラスポーツトレーニングセンター

東京2020パラリンピック競技大会のレガシーとして、東京都におけるパラスポーツの競技力向上の拠点、普及振興の場を提供していく。



- ・開所年月日 令和5年3月21日
- ・設置根拠 東京都体育施設条例
- ・所在地 調布市西町376番3  
(味の素スタジアム内)
- ・施設規模 延床面積 6,195 m<sup>2</sup>

### 主要施設

施設名	施設の概要
体育室	面積：744 m <sup>2</sup>
トレーニング室	面積：520 m <sup>2</sup>
多目的室	面積：186 m <sup>2</sup>
小多目的室	面積：107 m <sup>2</sup>
小体育室1	面積：82 m <sup>2</sup>
小体育室2	面積：123 m <sup>2</sup>
多目的スタジオ	面積：127 m <sup>2</sup>

- ・管理運営 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会グループが指定管理者として管理運営

・令和4年度事業実績

〔年間利用者数〕 (単位：人)

	施設合計
令和4年度	116

※令和5年3月21日に開所

## ス 障害者スポーツセンター

障害者の健康増進と社会参加の促進を図るため、スポーツ・レクリエーション、講習会等の場を提供する障害者専用のスポーツ施設である。

区部に東京都障害者総合スポーツセンター、市部に東京都多摩障害者スポーツセンターがある。

### 東京都障害者総合スポーツセンター

- ・開館年月日 昭和61年5月10日
- ・設置根拠 東京都障害者スポーツセンター条例
- ・所在地 北区十条台一丁目2番2号
- ・施設規模 敷地面積 22,568㎡

※平成23年4月 東京都福祉保健局から移管



### 主要施設

施設名	施設の概要
体育館	面積 761㎡
多目的室	面積 404㎡
トレーニング室	面積 241㎡
プール	25mプール 6コース
卓球室・サウンドテーブルテニス室	一般用卓球台5台 サウンドテーブルテニス用卓球台2台
洋弓場	70m
運動場	面積 7,082㎡
庭球場	面積 1,826㎡ 硬式3面
宿泊室	和室1室 洋室6室

### 東京都多摩障害者スポーツセンター

- ・開館年月日 昭和59年5月24日
- ・設置根拠 東京都障害者スポーツセンター条例
- ・所在地 国立市富士見台二丁目1番地の1
- ・施設規模 敷地面積 9,109㎡

※平成23年4月 東京都福祉保健局から移管



### 主要施設

施設名	施設の概要
体育館	面積 754㎡
トレーニング室	面積 176㎡
プール	25mプール 6コース
卓球室・サウンドテーブルテニス室	一般用卓球台3台 サウンドテーブルテニス用卓球台1台
宿泊室	和室1室 洋室6室

・管理運営 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会が指定管理者として管理運営

・令和4年度事業実績

[年間利用者数]

障害者総合スポーツセンター

(単位:人)

	施設合計
令和4年度	47,019

多摩障害者スポーツセンター

(単位:人)

	施設合計
令和4年度	38,019

セ 味の素スタジアム

多摩地域のみならず全都的なスポーツの拠点として調布基地跡地に建設された。サッカーJリーグチームのホームグラウンドとして知られるほか、スポーツ以外にもコンサート、試乗会、フリーマーケットなど多彩なイベントを開催している。

- ・開業年月日 平成13年3月10日
- ・所在地 調布市西町376番地3
- ・施設規模 敷地面積 177,422.71㎡  
建築面積 44,400.00㎡



主要施設

施設名	施設の概要
スタジアム	多目的競技場 トラック1周 400m×9レーン、全天候舗装 天然芝フィールド 107m×71m (約7,600㎡) 観覧席 48,013席 (うち車椅子席 336席)
アミノバイタルフィールド	人工芝フィールド 120m×75m (9,000㎡) スタンド 収容人数 約3,060人
ポケットガーデン	レストラン3店舗 ショップ1店舗
フットサル施設	屋内2面 屋外3面
AGFフィールド	第3種陸上競技場 トラック1周 400m×8レーン、全天候舗装 天然芝フィールド 106m×69m 客席数 822席
みどりの広場	散策路を有する広場、既存樹木を保全

- ・管理運営 株式会社東京スタジアムが協定に基づき管理運営

[主要大会等]

名称	日程
スタジアム	
Jリーグ(FC東京、東京ヴェルディ)	年間を通じて実施
JAPAN RUGBY LEAGUE ONE (東京サントリーサンゴリアス、東芝ブレイブルーパス東京)	5/1、12/18~1/7
第14回味の素スタジアム感謝デー	11/23 (オンライン配信も併用)
味の素スタジアムランニングフェスタ	11/27
アミノバイタルフィールド	
関東学生アメフト2022年度 春季オープン戦	4/24~6/26
関東大学アメフト2022年度 秋季リーグ戦	9/10~12/25

## ソ 有明アリーナ

有明エリアに新しく整備された都内最大規模のアリーナ施設。

東京の新たなスポーツ・文化の拠点として、国際大会等の質の高いスポーツ観戦機会の提供やコンサート等のイベント開催による文化の発信を行っている。



- ・竣工日 令和元年 12 月 9 日
- ・開業日 令和 4 年 8 月 20 日
- ・所在地 江東区有明一丁目 11 番 1 号
- ・施設規模 敷地面積 約 36,576 m<sup>2</sup>  
延べ面積 約 47,200 m<sup>2</sup>

### 主要施設

施設名	施設の概要
メインアリーナ	面積 約 4,100 m <sup>2</sup> 観客席 約 15,000 席（うち車椅子席 150、仮設席含む。）
サブアリーナ	面積 約 1,400 m <sup>2</sup>
その他	飲食・物販店舗、ジム・スタジオ、駐車場、駐輪場等

- ・管理運営 令和 4 年 6 月より、株式会社東京有明アリーナが公共施設等運営権に基づき運営（25 年間）

### 〔主要大会〕

名称	日程
東京パラリンピック 1 周年記念イベント	8/24
チャレスポ! TOKYO	10/8
バスケットボール B3 リーグ	10/9~10, 1/14~15
Historic X-over（新日本プロレス×STARDOM）	11/20
第 67 回全日本学生競技ダンス選手権大会	12/4
世界バンタム級 4 団体王座統一戦	12/13

## (3) スポーツ施設の整備

都は、東京 2020 大会に向け、アスリートにとって最高の競技環境を提供するとともに、運営がしやすく、観客が快適に観戦できるよう都立スポーツ施設の整備や改修を進めてきた。

今後、大会の競技施設をはじめ、スポーツ施設の新たな魅力を最大限発揮し、スポーツを中心に様々な目的で都民が集うことができる拠点にしていく。

### ア 大会を契機にした施設整備

競技会場は、競技を行う選手にとって最高のパフォーマンスを発揮できる環境を提供するものであるとともに、運営がしやすく、観客が快適に観戦できる施設であることが重要である。特に、都が整備する新規恒久施設については、大会後も都民の貴重な財産として有効に利用されるよう検討の上整備された。

#### (ア) アクセシビリティの確保

東京 2020 大会の競技会場となった都立スポーツ施設の整備・改修にあたっては、「東京 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえるとともに、障害者や専門家の意見等を聴取する「アクセシビリティ・ワークショップ」を開催し、会場整備に反映した。これらの取組により、例えば、車いすトイレに利用が集中しないよう、利用者それぞれに対応したトイレを個別に用意する機能分散の実現や、車いす席の水平・垂直分散配置

の実現など、アクセシビリティの確保を図った。

(イ) 再生可能エネルギーの導入

東京 2020 大会の競技会場となった都立スポーツ施設の整備にあたっては、「エネルギー基本計画」や「省エネ・再エネ東京仕様」等の全庁方針を踏まえ、再生可能エネルギーを積極的に導入した。

・太陽光発電設備

有明アリーナ、有明テニスの森公園テニス施設、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場、海の森水上競技場、東京アクアティクスセンター、武蔵野の森総合スポーツプラザ

・太陽熱利用設備

有明アリーナ、有明テニスの森公園テニス施設、東京アクアティクスセンター、武蔵野の森総合スポーツプラザ

・地中熱利用設備

有明アリーナ、東京アクアティクスセンター、武蔵野の森総合スポーツプラザ

イ 今後整備予定のスポーツ施設

(ア) 有明アーバンスポーツパークの整備

a 検討経緯

i アーバンスポーツゾーンの形成

平成 29 年 4 月に公表した「新規恒久施設の施設運営計画」にて、東京 2020 大会で使用された仮設スポーツ施設の移設、スポーツカフェ・ショップ等の設置により、アーバンスポーツゾーンを形成するとした。

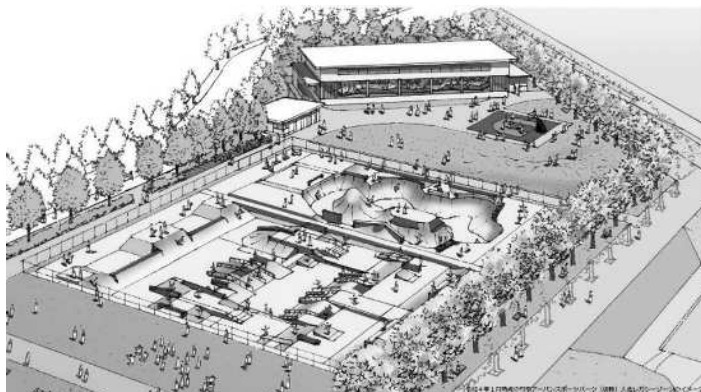
ii 若者に人気のある都市型スポーツの場の整備

令和 3 年 3 月に公表した『『未来の東京』戦略』にて、アーバンスポーツゾーンに、東京 2020 大会時の仮設施設を活用し、若者に人気のある都市型スポーツの場である有明アーバンスポーツパークを整備することとした。

iii 大会レガシーゾーンの整備

令和 4 年 1 月に公表した「TOKYOスポーツレガシービジョン」にて、東京 2020 大会のレガシーを活かし、スケートボード、スポーツクライミング（ボルダリング）、3x3 バスケットボール施設を備えた大会レガシーゾーンを、都が整備するとともに、民間事業者の創意工夫により、地域のにぎわい創出に貢献する施設を併設することとした。

【参考】大会レガシーゾーンイメージ（令和 4 年 1 月時点）



b 有明アーバンスポーツパーク整備運営事業の実施

i 実施方針の公表

令和4年6月に、民間の資金、創意工夫及び技術的・経営的能力等を活用し、効率的・効果的な事業推進を図るため、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（平成11年法律第117号。以下「PFI法」という。）に基づいて事業を行うこととし、PFI法第5条に基づく実施方針を公表した。

（整備運営事業の内容）

大会レガシーゾーンとともに、多目的ゾーンを設置することとし、多目的ゾーンについては、有明親水海浜公園と調和し、かつアーバンスポーツその他各種スポーツの振興に寄与し、地域のにぎわい創出に資する施設を、民間事業者の提案・資金により整備することとした。

ii 特定事業の選定及び募集要項等の公表

令和4年9月、PFI法に基づき、有明アーバンスポーツパーク整備運営事業を特定事業として選定し、同年10月、事業者の募集条件等を規定する募集要項等を公表した。

iii 事業候補者の決定

令和5年3月、有明アーバンスポーツパーク整備運営事業を実施する候補者を決定し、同年6月、事業契約書を締結した。

iv 今後の開業に向けて（予定）

- ・令和6年4月 先行開業（大会レガシーゾーンのみ）
- ・令和6年10月 全面開業

(イ) 東京辰巳アイスアリーナ（仮称）の整備

a 検討経緯

東京辰巳国際水泳場は、近接地に東京アクアティクスセンターが整備されることから、東京2020大会後の施設の機能について、東京都スポーツ振興審議会における有識者の意見等も参考にしながら検討し、平成31年3月、都内に施設数が少なく、利用ニーズが高いアイスリンク（通年）施設として整備することを公表した。

令和4年11月には、施設を運営する際の指針となる、東京辰巳アイスアリーナ（仮称）「施設運営計画」を公表した。

b 想定する施設の概要について

アイスリンク（通年）施設

競技面	メインリンク（60m×30m）※国際規格、サブリンク（47m×17m）
観客席	固定席：約3,500席 仮設席：約1,500席
関係諸室	会議室（運営諸室）、カフェ・売店等

c 今後の開業に向けて（予定）

- ・令和5年度～ 改修工事
- ・令和7年秋頃 開業

ウ スポーツ施設の大規模改修

老朽化した施設の改修・ユニバーサルデザインの導入、環境に配慮した施設への取組を行うとともに、利用者の利便性の向上、トップレベルの競技の観戦が楽しめる場としての整備を進め、大規模スポーツ大会等の開催にふさわしい施設へと再生する。



実施に当たっては、「第三次主要施設 10 か年維持更新計画」（令和 4 年 3 月東京都財務局）（以下、「第三次計画」という。）等に基づき、引き続き計画的に改修・改築を行っていく。

(7) 駒沢オリンピック公園総合運動場（昭和 39 年設置）の改修・改築

「駒沢オリンピック公園総合運動場改修・改築基本計画」（平成 22 年 7 月）に基づき、これまで弓道場、屋内球技場及び第一球技場の改築工事並びに硬式野球場の改修工事等を実施した。

現在は体育館の大規模改修工事を、第三次計画に基づき行っている。

(4) 今後の大規模改修（第三次計画対象施設）

- a 東京武道館
  - ・令和 3、4 年度基本計画
- b 東京体育館
  - ・令和 5 年度基本計画
- c 味の素スタジアム

[参考]

1 新規恒久施設の施設運営計画

東京2020大会で都が新たに整備する競技施設については、大会後も都民共有の財産として末永く親しまれ、有効活用される必要があるため、広く外部の意見を求めるなど、様々な知恵やノウハウを結集しながら、後利用のあり方について検討を行ってきた。

具体的には、外部有識者等で構成される「新規恒久施設等の後利用に関するアドバイザー会議」等を活用し、民間事業者や競技団体、地元自治体の意見等も参考にしながら検討を進めてきた。また、平成28年9月からは都政改革本部のオリンピック・パラリンピック調査チームと連携しながら詳細な検討を重ねた。これらの結果を取りまとめ、平成29年4月に大会後の施設運営の指針として「新規恒久施設の施設運営計画」を策定した。

(参考) 検討経過

【後利用の方向性】

○平成26年12月～平成27年1月

第1回～第3回「アドバイザー会議」開催

○平成27年6月

「アドバイザー会議のまとめ」「新規恒久施設に係る後利用の方向性」公表

【施設運営計画】

○平成27年10月～

施設運営計画策定支援事業者決定、施設運営計画策定検討会を開催

○平成28年3月

第4回「アドバイザー会議」開催

○平成28年5月

施設運営計画（中間のまとめ）公表、パブリックコメント募集

○平成28年9月～12月

都政改革本部オリンピック・パラリンピック調査チームと連携した検討

○平成29年3月

第5回「アドバイザー会議」開催

○平成29年4月

「新規恒久施設の施設運営計画」を公表

### 新規恒久施設の施設運営計画の施設別運営計画

施設名	施設運営計画の内容
東京アクアティクスセンター	(1) 主なレガシー ・ 世界を目指すアスリートを育成 ・ 水泳の裾野拡大と次世代アスリート候補の育成 (2) 後利用の視点 ・ 年間100大会を開催 ・ 子供から高齢者まで、スポーツや健康増進に取り組むことができる場として活用 (3) 周辺施設等との連携 ・ 辰巳の森海浜公園と一体となったにぎわいを創出し、都民の憩いの場として活用
海の森水上競技場	(1) 主なレガシー ・ アスリートの強化、育成 ・ 水上競技の裾野拡大 (2) 後利用の視点 ・ 年間30大会を開催 ・ 水上スポーツ体験や水上レジャーの機会を提供 (3) 周辺施設等との連携 ・ 海の森公園と連携し、臨海部の新たな憩いの場を創出
有明アリーナ	(1) 主なレガシー ・ 質の高いスポーツ観戦機会を提供 ・ コンサートの開催など文化の発信拠点 (2) 後利用の視点 ・ 年間10大会を開催 ・ メインアリーナに一定期間仮設の木製床を設置し、各種競技大会等で活用 ・ 魅力的なエンターテインメントや身近なスポーツ実践の場を提供 (3) 周辺施設等との連携 ・ 有明レガシーエリアや有明親水海浜公園と連携し、にぎわいを創出
カヌー・スラロームセンター	(1) 主なレガシー ・ 国内初の人工スラロームコースとして、アスリートを強化、育成 ・ 水上スポーツや水上レジャーの機会を提供 (2) 後利用の視点 ・ 年間7大会を開催 ・ 水上スポーツ体験やラフティング、水難救助訓練など多目的に利用 (3) 周辺施設等との連携 ・ 葛西臨海公園、葛西海浜公園と連携し、にぎわいを創出
大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場	(1) 主なレガシー ・ ホッケーの競技力強化、普及・振興の場として活用 ・ 都民が様々なスポーツを行うことができる場として活用 (2) 後利用の視点 ・ 年間23大会を開催 ・ 様々なスポーツの大会や練習で利用 (3) 周辺施設等との連携 ・ 大井ふ頭中央海浜公園全体としてスポーツ・レクリエーションの拠点を形成

<p>夢の島公園 アーチェリー場</p>	<p>(1) 主なレガシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アーチェリーの主要大会の会場として活用</li> <li>・ 都民に憩いの場を提供</li> </ul> <p>(2) 後利用の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間20大会を開催</li> <li>・ 大会等での利用時を除き、自由に利用できる芝生広場を提供</li> </ul> <p>(3) 周辺施設等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夢の島公園内の施設と連携しイベントやスポーツ教室など幅広いプログラムを提供</li> </ul>
--------------------------	---

## 2 スポーツ施設等の管理者等

### <体育施設>

施設	指定管理者	指定期間
東京体育館	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ ○公益財団法人東京都スポーツ文化 事業団 ○株式会社ティップネス ○株式会社オーエンス	5年 (R5～R9)
駒沢オリンピック公園 総合運動場	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ ○公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 ○株式会社オーエンス ○一般社団法人東京都レクリエーション協会	5年 (R5～R9)
東京武道館	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ ○公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 ○株式会社ティップネス ○株式会社東洋実業	5年 (R5～R9)
有明テニスの森公園 テニス施設	有明テニス・マネージメントチーム ○東京港埠頭株式会社 ○公益社団法人日本テニス事業協会	5年 (R5～R9)
若洲海浜公園 ヨット訓練所	若洲シーサイドパークグループ ○東京港埠頭株式会社 ○特定非営利活動法人マリンプレイス東京	5年 (R5～R9)
武蔵野の森総合 スポーツプラザ	東京スタジアムグループ ○株式会社東京スタジアム ○株式会社京王設備サービス ○株式会社シミズオクト ○東京ビジネスサービス株式会社 ○株式会社東京ドームスポーツ	5年 (R5～R9)

海の森水上競技場	海の森水上競技場マネジメント共同企業体 ○一般財団法人公園財団 ○株式会社協栄 ○日建総業株式会社 ○野村不動産ライフ&スポーツ株式会社	5年 (R5～R9)
夢の島公園 アーチェリー場	アメニス夢の島グループ ○株式会社日比谷アメニス ○日建総業株式会社 ○アズビル株式会社 ○株式会社日比谷花壇 ○株式会社グリーバル ○株式会社エコルシステム	5年 (R5～R9)
カヌー・スラローム センター	株式会社協栄	5年 (R5～R9)
大井ふ頭中央海浜公園 ホッケー競技場	アメニス海上南部地区グループ ○株式会社日比谷アメニス ○日建総業株式会社 ○太陽スポーツ施設株式会社 ○株式会社エコルシステム	3年 (R5～R7)
東京アクアティクス センター	事業団・オーエンス・セントラルスポーツ・都水協グループ ○公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 ○株式会社オーエンス ○セントラルスポーツ株式会社 ○公益財団法人東京都水泳協会	5年 (R5～R9)
東京都パラスポーツ トレーニングセンター	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会グループ ○公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 ○株式会社東京スタジアム	5年1カ 月 (R5.3～ R9)

<障害者スポーツセンター>

施設	指定管理者	指定期間
障害者総合スポーツ センター	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会	10年 (H28～R7)
多摩障害者スポーツ センター		

<その他の施設> (指定管理以外の施設等)

味の素スタジアム	株式会社東京スタジアムに普通財産貸付
有明アリーナ	株式会社東京有明アリーナが公共施設等運営権に基づき運営（令和4年6月より）
有明アーバンスポーツパーク	Tokyo Sports Wellness Village 株式会社が PFI 法に基づく PFI 事業として運営（令和6年10月より）



### 3 オリンピック・パラリンピックパーク

#### (1) 概要

IOC及びIPCと協議を行い、令和4年7月から、有明エリア及び武蔵野の森エリアにそれぞれ「有明オリンピック・パラリンピックパーク」「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク」という名称を付している。

#### (2) パークエリア

次のエリアをオリンピック・パラリンピックパークとしている。

●有明オリンピック・パラリンピックパーク	●武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク
東京 2020 大会競技会場 ・有明アリーナ ・有明体操競技場 ・有明アーバンスポーツパーク	東京 2020 大会競技会場 ・武蔵野の森総合スポーツプラザ ・東京スタジアム ・武蔵野の森公園
	

※有明体操競技場は、大会後に展示場に改修され、現在は有明 GYM-EX として営業

## 5 政策連携団体等との連携・協力

### (1) 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

都民の生涯にわたるスポーツ等の普及振興を図り、もって都民の文化的生活の向上に寄与することを目的として設立された。

#### 【組織概要】

- ・ 設立年月日 昭和60年10月1日
- ・ 所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷一丁目29番9号 日本パーティビル3階
- ・ 理事長 塩見 清仁
- ・ 役員・評議員 役員9名 評議員12名
- ・ 基本財産 5億円（うち都の出捐金5億円）

#### 【令和4年度の取組】

##### ア 指定管理者としての事業展開

###### (ア) 概要

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団は、民間企業等とコンソーシアムを構築し、東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館、東京辰巳国際水泳場及び東京アクアティクスセンターの指定管理業務を行った。

また、東京都立埋蔵文化財調査センター（所管：東京都教育庁）の指定管理業務を行った。

###### (イ) スポーツ振興事業と自主事業

- ・ スポーツ振興事業（都のスポーツ推進施策に基づき、各体育施設の設置目的・使命を踏まえた先導的で広域的な事業）

東京体育館 27事業

駒沢オリンピック公園総合運動場 17事業

東京武道館 33事業

- ・ 施設活用自主事業（体育施設を有効活用し、多様な団体と企業の参画によるスポーツ関連事業）

東京体育館 10事業

駒沢オリンピック公園総合運動場 13事業

東京武道館 2事業

##### イ 公益財団法人としての事業展開

###### (ア) 概要

令和4年度は、都のスポーツ施策推進事業、スマイル自主事業及び埋蔵文化財調査事業を展開し、このうち、埋蔵文化財調査事業は令和4年度をもって終了した。

###### (イ) 都のスポーツ施策推進事業

- ・ スポーツ国際交流事業である「2022東京国際ユース（U-14）サッカー大会」及び「2022ジュニアスポーツアジア交流大会」など3事業を実施

- ・広域スポーツセンターを設置し、各種地域スポーツクラブ支援事業を実施
- ・スポーツムーブメント醸成事業として、「スポーツフェスタ」、「TOKYOウオーク2022」や「スポーツ東京案内」などを実施
- ・大学等と連携して都の競技力向上事業を実施
- ・特別支援学校をパラスポーツの拠点の一つとして活用する「都立特別支援学校活用促進事業」を実施

(ウ) スマイル自主事業

- ・「ジュニアサッカーフェスティバル」など7事業を実施
- ・スマイルスポーツ誌の発行等の広報活動を実施

(エ) 埋蔵文化財調査事業（所管：東京都教育庁）

- ※ 東京辰巳国際水泳場及び東京都立埋蔵文化財調査センターの指定管理業務は令和4年度をもって終了
- ※ 令和5年度からは、東京2025デフリンピックに係る業務として、競技・会場の準備運營業務などを実施
- ※ 都立18スポーツ施設の利用に関する総合窓口「TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ」を令和5年5月1日に開設

## (2) 一般財団法人東京マラソン財団

東京マラソンを安定的に運営し、国内外から多くのランナーが集う世界最高水準の大会へと発展させるとともに、ランニングスポーツの普及振興を通じて、都民の健康増進と豊かな都民生活の形成に寄与することを目的として設立された。

【組織概要】

- ・設立年月日 平成22年6月30日
- ・所在地 東京都江東区有明三丁目7番26号 有明フロンティアビルB棟8階
- ・理事長 伊藤 静夫
- ・役員・評議員 役員39名 評議員8名
- ・基本財産 2億4,000万円（うち都の出捐金2.18億円）

【令和4年度の取組】

- ・東京マラソン2023
- ・東京レガシーハーフマラソン2022
- ※ 令和5年度からランニングイベント「TOKYO ROKUTAI FES」を味の素スタジアムにおいて実施

## (3) 株式会社東京スタジアム

調布基地跡地に多摩地域のスポーツ振興の拠点となることを目指し、民間の資金、経営のノウハウを活用した競技場の建設及び施設の管理運営を行うことを目的として設立された。

## 【組織概要】

- ・ 設立年月日 平成6年8月11日
- ・ 所在地 東京都調布市西町376番地3号
- ・ 代表取締役社長 相場 淳司
- ・ 取締役・監査役 取締役10名 監査役3名
- ・ 資本金 96億5,250万円（うち都の出資金35億円）

## 【令和4年度の取組】

## ア 株式会社としての事業展開

味の素スタジアム等の管理運営

## イ 指定管理者としての事業展開

## (ア) 概要

株式会社東京スタジアムは、平成29年11月1日から武蔵野の森総合スポーツプラザの指定管理業務を行っている。

また、令和5年3月1日から公益社団法人東京都障害者スポーツ協会グループとして東京都パラスポーツトレーニングセンターの指定管理業務を行っている。

## (イ) 主な事業

スポーツ振興事業、地域貢献事業等（武蔵野の森総合スポーツプラザ）

## (4) 公益財団法人東京都体育協会

都におけるスポーツの統一組織として、スポーツを振興し、都民の体力向上及び健康増進を図り、豊かな人間性を育み、競技スポーツを発展させることを目的として設立された。

## 【組織概要】

- ・ 設立年月日 昭和18年11月25日
- ・ 所在地 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square 10階
- ・ 会長 山本 博
- ・ 代表理事 塩見 清仁
- ・ 役員・評議員 役員29名 評議員16名
- ・ 基本財産 8,000万円

## 【令和4年度の取組】

- ・ 競技力向上事業（国体候補選手強化事業、ジュニア選手・育成強化事業、国体選手健康調査チェック等事業、オリンピック等日本代表候補選手強化事業、指導者育成・スポーツ専門人材活用事業、ジュニア育成地域推進事業、トップアスリート発掘・育成事業、スポーツ・インテグリティの理解促進事業）
- ・ 国体推進事業（第77回・特別国民体育大会 東京都選手団の派遣）
- ・ 生涯スポーツの振興と普及に関する事業（都民体育大会の開催、都民体育大会・東京都障害者スポーツ大会合同開会式、都民生涯スポーツ大会の開催、シニアスポーツの



振興)

- ・スポーツを通じた被災地支援事業（東京マラソン「10kmレース」招待事業）
- ・総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用

※ 令和5年度から、競技団体組織基盤強化支援事業、パフォーマンスサポート事業及び地域スポーツクラブ支援事業を実施

## (5) 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

都に在住する障害のある人の心身の健康の保持増進と自立、社会参加の促進を図るため、スポーツの奨励振興に関する諸事業を行い、もって障害のある人の福祉の向上に寄与することを目的として設立された。

### 【組織概要】

- ・設立年月日 平成2年5月1日
- ・所在地 東京都新宿区神楽河岸1番1号 セントラルプラザ12階
- ・会長（代表理事） 延興 桂
- ・役員 役員23名

### 【令和4年度の取組】

#### ア 指定管理者としての事業展開

##### (7) 概要

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会は、平成18年4月1日から東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンターの指定管理業務を行っている。

また、令和5年3月1日から公益社団法人東京都障害者スポーツ協会グループとして東京都パラスポーツトレーニングセンターの指定管理業務を行っている。

##### (4) 主な事業

- ・健康スポーツ相談、スポーツ教室、スポーツ大会、地域交流事業、講習会、地域振興事業（東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンター）
- ・スポーツ振興事業等（東京都パラスポーツトレーニングセンター）

#### イ 公益社団法人としての事業展開

##### (7) 都補助事業

パラスポーツ地域サポート事業等5事業を実施

##### (4) 都との共催事業

パラスポーツイベント「チャレスポ！TOKYO」、パラスポーツ次世代ホープ発掘事業等17事業を実施

##### (4) その他

パラスポーツ理解促進・普及啓発支援事業、各種スポーツ教室の開催協力、スポ

ーツ大会の開催協力等

(6) 一般財団法人東京2025世界陸上財団

東京2025世界陸上の準備及び運営に関する事業を行い、もって大会を成功させること、また、それらを通じ、都民及び国民のスポーツの普及、振興を図り、健康増進と豊かな生活の形成に寄与するとともに、開催地である東京及び日本のプレゼンス向上に資することを目的として設立された。

【組織概要】

- ・ 設立年月日 令和5年7月4日
- ・ 所在地 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square
- ・ 会長（代表理事） 尾縣 貢
- ・ 役員・評議員 役員12名 評議員3名
- ・ 基本財産 300万円